年　　組　　名前

道新でワークシート

道内コンブ生産量減少　漁の中止や期間短縮　価格は上昇

道内のコンブの年間生産量が、温暖化の影響で初めて１万トンを割り込む見通しとなった。資源確保のため、水揚げ最盛期の８月を待たず、漁の中止や短縮が相次ぐが、好転は見通せないまま。流通量の先細りを見越し、取引価格は前年比２～３割値上がりして過去最高値圏となっており、昆布製品の値上げや品薄を招く可能性もある。

「水揚げ量は昨年の半分に届かないかもしれない」。釧路管内釧路町の昆布森漁協に所属するＡさん（69）は、磯舟に引き上げたコンブを見て肩を落とす。同町の漁師Ｂさん（70）も「ここまでの悪さは記憶がない。今年はあと数回の漁で資源がなくなり、打ち切りになるのでは」と不安を口にする。

同管内のコンブ漁は６月に成長前の軟らかいコンブを収穫する「サオマエコンブ漁」と、その後に成長したコンブを採る「成コンブ漁」がある。同管内５漁協のうち昆布森を含む３漁協が、成コンブ漁に備えてサオマエコンブ漁を中止したが、藻場は回復していない。

日高中央漁協（日高管内浦河町）も、コンブ漁をする８地区のうち２地区が長くても数日で操業を中止。担当者は「他の地区も漁期が短くなるのでは」と予測する。

雄武漁協（オホーツク管内雄武町）は昨夏の猛暑で打撃を受けた上、冬季に押し寄せた流氷が岩場のコンブを根の部分からちぎってしまった。今月19日に漁を解禁したが、漁業者の自主判断で20日以降は取りやめた。

コンブ漁は重労働で、2000年度に１万４千人いた道内のコンブ漁師は、23年度に5400人に減った。「資源が回復しないと担い手不足に拍車がかかる」（漁業関係者）との声は絶えない。

不漁で価格は上がっている。コンブ卸売業者でつくる北海道昆布事業協同組合（札幌）によると、直近の取引価格（10キロ当たり）は、釧路地区のサオマエコンブは最高級の１等が前年同期比33%増の２万４千円、根室地区は同30%増の２万６千円で、いずれも過去最高。「養殖物が主流の道南も前年比で２割高い」（道漁連）という。

コンブの加工・販売を手がける「みついし昆布」（日高管内新ひだか町）は「必要な数量を確保するため、近隣漁協からも仕入れるしかない」。11月に関東の食材業者に卸す予定の乾燥昆布は一部値上げする。来春の価格改定も検討中だ。

道産コンブを扱う大阪の老舗昆布店「小倉屋山本」は、近年の不漁傾向を受けて３年分を備蓄してある。山本博史社長は「今年は備蓄も使うことになりそう。ロシア産の輸入も視野に入れている」と明かす。

ただ、コンブの輸入量は国がコントロールしている上、海外でも日本食人気の高まりでコンブ需要は堅調だ。道産コンブの生産維持へ、品種や大規模養殖技術の改良も今後の課題となりそうだ。

2024年7月28日（日）　道新デジタル版会員限定記事　（記事は再編集しています）

年　　組　　名前

道新でワークシート

① 道内コンブの年間生産量が、初めて1万トンを割り込む見通しとなった。
その理由を記事から読み取り、２つ書きなさい。

② 道内コンブ生産量の減少によって、どのような影響があるか。
記事から読み取り、「労働」と「価格」の視点から書きなさい。

③ 道内コンブの生産維持に向けて、今後課題となりそうなものを記事から読み取り、
２つ選びなさい。

ア　ロシア産のコンブの輸入

イ　コンブの品種改良

ウ　大規模養殖技術の改良

エ　コンブ料理の新たな開発